

【実務】

出題の範囲(薬学教育モデル・コアカリキュラム、実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って整理したもの)

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
1149	実務実習事前学習	事前学習を始めるにあたって	薬剤師業務
1150			医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる
1151			医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について概説できる
1152		チーム医療	薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する
1153			医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる
1154			チーム医療における薬剤師の役割を説明できる
1155			自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する
1156		医薬分業	医薬分業の仕組みと意義を概説できる
1157	処方せんと調剤	処方せんの基礎	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる
1158			処方オーダーリングシステムを概説できる
1159			処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる
1160			調剤を法的根拠に基づいて説明できる
1161			代表的な処方せん例の審査における注意点を説明できる
1162			不適切な処方せんの処置について説明できる
1163		医薬品の用法・用量	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる
1164			患者に適した剤形を選択できる
1165			患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる
1166			患者の特性に適した用量を計算できる
1167			病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる
1168		服薬指導の基礎	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる
1169		調剤室業務入門	代表的な処方せん例の審査をシミュレートできる
1170			処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1171			処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1172			調剤された医薬品の審査をシミュレートできる
1173	疑義照会	疑義照会の意義と根拠	処方せんの審査の意義とその必要性について討議する
1174			疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる
1175			代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる
1176			特定の配合によって生じる医薬品の性状・外観の変化を観察する
1177			不適切な処方せん例について、その理由を説明できる
1178		疑義照会入門	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する
1179			代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる
1180			代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる
1181			代表的な医薬品について相互作用を列挙できる
1182			疑義照会の流れを説明できる
1183	医薬品の管理と供給	医薬品の安定性	疑義照会をシミュレートする
1184			医薬品管理の意義と必要性について説明できる
1185		特別な配慮を要する医薬品	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる
1186			毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる
1187			麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1188			血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる
1189			輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる
1190			代表的な生物製剤の種類と適応と説明できる
1191			生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1192			麻薬の取扱いをシミュレートできる
1193			代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる
1194			放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1195		製剤化の基礎	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1196			薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1197			代表的な院内製剤を調製できる
			無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる

1198			抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる
1199		注射剤と輸液	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる
1200			代表的な配合変化を検出できる
1201			代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる
1202			体内電解質の過不足を判断して補正できる
1203		消毒薬	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる
1204			消毒薬調製時の注意点を説明できる
1205	リスクマネジメント	安全管理	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる
1206			誤りを生じやすい投薬例を列挙できる
1207			院内感染の回避方法について説明できる
1208		副作用	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる
1209		リスクマネジメント	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる
1210			リスクを回避するための具体策を提案する
1211			事故が起こった場合の対処方法について提案する
1212	服薬指導と患者情報	服薬指導に必要な技能と態度	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる
1213			代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる
1214			代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる
1215			インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する
1216			適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する
1217			医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする
1218			患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1219		患者情報の重要性	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる
1220			患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる
1221			医師、看護師などの情報の共有の重要性を説明できる
1222			患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1223		服薬指導入門	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる
1224			共感的態度で患者インタビューを行う
1225			患者背景に配慮した服薬指導ができる
1226			代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる
1227	事前学習のまとめ	総合実習	代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる
1228			疑義照会をシミュレートする
1229			処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1230			処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1231			調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる
1232			患者背景に配慮した服薬指導ができる
1233	病院実習	病院調剤を実践する	病院調剤業務の全体の流れ
1234			患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる
1235			病院内での患者情報の流れを図式化できる
1236			病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる
1237			生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1238			医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
1239			職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1240			薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる
1241			処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる
1242			病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる
1243		計数・計量調剤	処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる
1244			処方せんの記載事項(医薬品名、分注、用法・用量など)が整っているか確認できる
1245			代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1246			薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる
1247			適切な疑義照会の実務を体験する
1248			薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる
1249			処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる
1250			錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる
1251			調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
			代表的な医薬品の剤形を列挙できる

1252			代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる
1253			医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる
1254			代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる
1255			異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる
1256			毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる
1257			一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる
1258			散剤、液剤などの計量調剤ができる
1259			調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる
1260			細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる
1261			特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1262			錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる
1263			調剤された医薬品に対して、監査の実務を体験する
1264		服薬指導	患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる
1265			患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる
1266			自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる
1267			お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる
1268			期待する効果が充分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する
1269		注射剤調剤	注射剤調剤の流れを概説できる
1270			注射処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる
1271			代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1272			適切な疑義照会の実務を体験する
1273			処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる
1274			注射剤(高カロリー栄養液など)の混合操作を実施できる
1275			注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる
1276			毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる
1277			細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる
1278			特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1279			調剤された注射剤に対して、正しい監査の実務を体験する
1280		安全対策	リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる
1281			調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1282			商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる
1283			医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する
1284			インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する
1285			職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる
1286			実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる
1287	医薬品を動かす・確保する	医薬品の管理・供給・保存	医薬品管理の流れを概説できる
1288			医薬品の適正在庫の意義を説明できる
1289			納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる
1290			医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる
1291			納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる
1292			同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる
1293			院内における医薬品の供給方法について説明できる
1294			請求のあった医薬品を取り揃えることができる
1295		特別な配慮を要する医薬品	麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する
1296			毒薬・劇薬を適切に取り扱うことができる
1297			血漿分画製剤の取扱いを体験する
1298			法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見直し、その意義について考案する
1299		医薬品の採用・使用中止	医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる
1300			代表的な同種・同効薬を列挙できる
1301	情報を正しく扱う	病院での医薬品情報	医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる
1302			院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる
1303			緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる
1304			患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる
1305		情報の入手・評価・加工	医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる

1306			DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する
1307			医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる
1308		情報提供	医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する
1309			医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する
1310			患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する
1311			情報提供内容が適切か否かを追跡できる
1312	ベッドサイドで学ぶ	病棟業務の概説	病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理、与薬、リスクマネジメント、供給管理など)を概説できる
1313			薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる
1314			病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する
1315		医療チームへの参加	医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる
1316			病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする
1317		薬剤管理指導業務	診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる
1318			報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)
1319			収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる
1320			患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる
1321			使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる
1322			臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる
1323			医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する
1324			患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する
1325			薬に関する患者の質問に分かり易く答える
1326			患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる
1327			代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる
1328			代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる
1329			患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる
1330			患者に共感的態度で接する
1331			患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる
1332			期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する
1333			副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する
1334		処方支援への関与	治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を確じとる
1335			適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する
1336	薬剤を造る・調べる	院内で調製する製剤	院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)
1337			無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる(点滴液、注射液など)
1338		薬物モニタリング	実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する
1339		中毒医療への貢献	薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法及び解毒方法について討議する
1340	医療人としての薬剤師		患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる
1341			患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる
1342			患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する
1343			生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1344			医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する
1345			職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1346	薬局実習	薬局アイテムと管理	薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる
1347			薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる
1348			薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる
1349		薬局製剤	代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる
1350			代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる
1351		薬局アイテムの管理と保存	医薬品の適正在庫とその意義を説明できる
1352			納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる
1353			薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する
1354		特別な配慮を要する医薬品	麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる
1355			毒物、劇物の取扱いについて説明できる
1356			法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考議する
1357	情報のアクセスと活用	薬剤師の心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する
1358			職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1359		情報の入手と加工	医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸などの種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる

1360			基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる
1361			処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる
1362			薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる
1363			緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる
1364			問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる
1365			医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる
1366		情報の提供	入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる
1367			入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる
1368			患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる
1369	薬局調剤を実践する	保険調剤業務の全体の流れ	保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる
1370			保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる
1371		処方せんの受付	処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる
1372			処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる
1373			初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる
1374			初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる
1375			処方せん受付時の対応ができる
1376			生命に関わる職種であることを自覚し、ふざかしい態度で行動する
1377			患者が自らすすんで話ができるように工夫する
1378			患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる
1379		処方せんの審査と疑義照会	処方せんが正しく記載されていることを確認できる
1380			処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる
1381			薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる
1382			疑義照会の行い方を身につける
1383			疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする
1384		計数・計量調剤	薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる
1385			処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる
1386			錠剤、カプセル剤などの計量調剤ができる
1387			代表的な医薬品の剤形を列挙できる
1388			医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる
1389			代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる
1390			同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる
1391			異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる
1392			代表的な同種・同効薬を列挙できる
1393			代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる
1394			一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる
1395			一回量(一包化)調剤を実施できる
1396			錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる
1397			散剤、液剤などの計量調剤ができる
1398			調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる
1399			毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる
1400			特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1401			自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる
1402		計数・計量調剤の審査	調剤された医薬品に対して、審査の実務を体験する
1403		服薬指導の基礎	適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる
1404			薬歴管理の意義と重要性を説明できる
1405			薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる
1406			薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる
1407			妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる
1408			患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる
1409			自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる
1410		服薬指導入門実習	指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる
1411			薬歴簿を活用した服薬指導ができる
1412			患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる
1413			お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる

1414		服薬指導実践実習	患者に共感的態度で接する
1415			患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる
1416			患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる
1417			患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する
1418			入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる
1419		調剤録と処方せんの保管・管理	調剤録の法的規制について説明できる
1420			調剤録への記入事項について説明できる
1421			調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる
1422			調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる
1423			処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる
1424		調剤報酬	調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる
1425			薬剤師の技術評価の対象について説明できる
1426		安全対策	代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う
1427			名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる
1428			特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる
1429			調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1430			調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する
1431			過誤が生じたときの対応策を討議する
1432			インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる
1433	薬局カウンターで学ぶ	患者・顧客との接遇	かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う
1434			患者・顧客に対して適切な態度で接する
1435			疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる
1436			医師への受診勧告を適切に行うことができる
1437		一般用医薬品・医療用具・健康食品	セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる
1438			顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる
1439		カウンター実習	顧客が自らすすんで話ができるように工夫する
1440			顧客が必要とする情報を的確に把握する
1441			顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる
1442			入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる
1443			疾病の予防及び健康管理についてアドバイスできる
1444			セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療用具などを適切に選択・供給できる
1445			医師への受診勧告を適切に行うことができる
1446			患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる
1447	地域で活躍する薬剤師	在宅医療	訪問薬剤管理指導業務について説明できる
1448			在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる
1449			薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う
1450		地域医療・地域福祉	病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる
1451			当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる
1452			当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる
1453		災害時医療と薬剤師	緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる
1454		地域保健	学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる
1455			地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる
1456			麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる
1457			日用品に係る薬剤師の役割について説明できる
1458			日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる
1459			誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる
1460			生活環境における消毒の概念について説明できる
1461			話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる
1462		地域対応実習	日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる
1463			誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる
1464			生活環境における消毒の概念について説明できる
1465			話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる
1466	薬局業務を総合的に学ぶ	総合実習	薬局業務を総合的に実践する
1467			患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる

